

文化学科

- 日本研究
- アジア・オセアニア研究
- ヨーロッパ・地中海研究
- アメリカ研究

世界各地の文化について多面的・総合的な理解を持ち、人文科学の専門的・学問的な深い分析ができる、国際化時代のリーダーになれる人を育てます。

文化学科では、1年次での基礎的な学習の後、2年次から日本研究、アジア・オセアニア研究、ヨーロッパ・地中海研究、アメリカ研究のいずれかに属し、その地域の文化に関して、言語、文学、歴史、哲学・思想、社会、民族、地理、環境まで、多面的・総合的に学んでいきます。こうした幅の広さが文化学科の特徴の一つです。

それと同時に、卒業論文に向けて深く専門的に研究していくために不可欠な人文科学の専門分野別の指導も十分に行われます。ある地域の文化を多面的・総合的に学ぶことを、専門性を高めることで強化する、これが文化学科のカリキュラムの基本です。



文化学科で学べる専門分野

- 言語学 ● 文学 ● 歴史学・考古学 ● 美術史学 ● 地理学・環境学
- 哲学・思想 ● 社会学 ● 文化人類学 ● 図書館・情報学

1年生

共通教育で学問の基礎を学びます。1年生の終わりに自分の所属地域を決めます。

2年生以降

自分が所属する地域でその地域の文化について多面的・総合的に学んでいきます。

3・4年生 ゼミ

所属する地域の特定の領域について、専門分野のゼミに所属して研究し卒業論文を書きます。

カリキュラムの流れ

文化学研究総論 (1年後期)

大学での勉強の仕方を学ぶための少人数セミナーで、入学後すぐに受講します。自発的な研究の第一歩です。

専門PBLセミナーA (2年前期)

各所属地域で開講される総合科目です。各地域の文化を学際的・多面的に分析する講義です。

専門性を
活かした資格

教員

中学校(国語・社会・英語)と高等学校(国語・地理・歴史・公民・英語)の免許が取得できます。

学芸員

博物館に勤務する専門職員です。資料の収集、保管、展示や調査研究、その他の関連する事業を行います。

図書館司書 学校図書館司書教諭

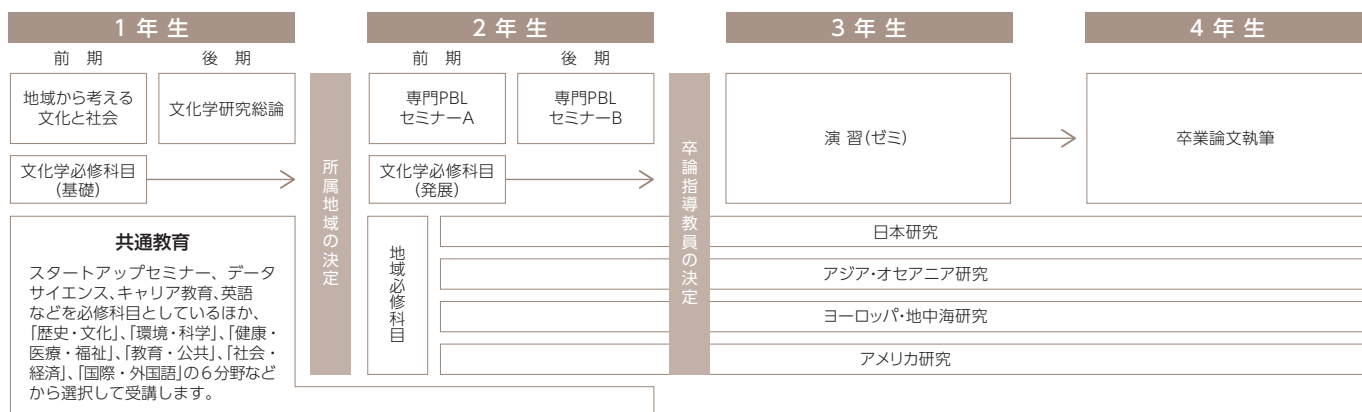
司書は各種の図書館で、また司書教諭は小・中・高の学校図書館で勤務する専門職員です。

大学院への進学

大学院修士課程・博士課程へ進学するために十分な専門領域の訓練を受けることができます。



文化学科教育カリキュラム



文化学科1年生S.S.さんの1週間スケジュール

前期

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1限目 8:50~10:20		日本文学C			データサイエンスI
2限目 10:30~12:00		異文化理解I 演習(ドイツ語A)a	英語I コミュニケーション	環境地理学A	法学A
昼休み					
3限目 13:00~14:30	英語I 大学基礎	スポーツ 健康科学a	こころの サポート	異文化理解I 基礎(ドイツ語A)a	哲学G
4限目 14:40~16:10			インターンシップ 入門	英語I TOEIC	社会学B
5限目 16:20~17:50	地域から考える 文化と社会	英語I TOEIC			スタートアップ PBLセミナー

文化学科3年生T.N.さんの1週間スケジュール

前期

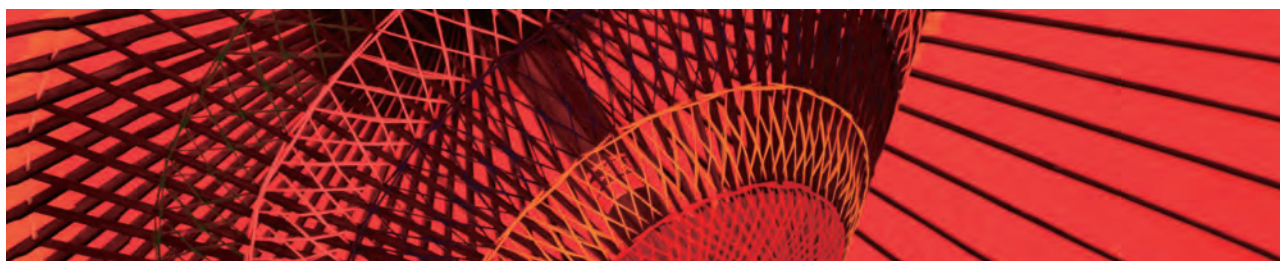
	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1限目 8:50~10:20					
2限目 10:30~12:00	ドイツ文学 演習G	ドイツ文学 演習C	文化人類学 概論A	アメリカの 思想A	
昼休み					
3限目 13:00~14:30	ドイツ文学論A	ドイツの文学C		ドイツ文学 演習A	
4限目 14:40~16:10	イギリス文学 演習C			ドイツの文学A	
5限目 16:20~17:50					

文献史料とフィールドワークを重視し、学校や市町村で活躍する人材を育成する

日本研究

私達は本当に日本の文化や歴史、思想を理解しているのでしょうか。海外に出ると初めて日本の食事の美味しさ、自然の豊かさ、人情の厚さを痛感します。日本の豊かで奥深い日常はいつ、どの様に形成されたのでしょうか。伊勢湾に面する三重の地はこの問いに様々なヒントを与えてくれます。

地域社会と共に素敵な解答を見つけてみませんか。



教員紹介

■日本倫理思想史(遠山 敦)
思索の伝統をたどり生の意味を問う

■日本考古学(小澤 毅)
発掘調査と史料から文化の起源を考える

■日本古代・中世信仰史(山田雄司)
神仏を起点に日本人とは何かを考える

■日本近世史(塚本 明)
古文書を通して江戸民衆の声を聞く

■日本語学(川口敦子)
中世国語資料から日本語を考える

■日本中古文学(亀田夕佳)
平安後期物語から物語と和歌の関係を考える

■日本近世文学(吉丸雄哉)
江戸の小説と詩歌から雅俗の心を学ぶ

■日本近現代文学(開 信介)
文学作品の読解を通じ虚構と非虚構の関わりを考える

■社会学(永谷 健)
社会問題から近現代日本の真相に迫る

■社会学(吉村真衣)
フィールドワークから地域社会の暮らしや文化を考える

■文化地理学(森 正人)
近現代の風景・場所・空間を考える

■忍者学(高尾善希)
史実の忍者の実態を古文書から探る

卒業生インタビュー

学びで培った仕事力

志摩市教育委員会生涯学習スポーツ課

2021年卒業 R.T.さん



在学時は日本近世史ゼミに所属し、古文書解読やフィールドワークを通して、志摩地域の歴史や受け継がれた文化的魅力に惹かれ、志摩市役所に就職しました。グループワークで楽しく学びながら、資料を分析し理解する力や発想力、協調性などを培ったことが、市民の皆様との対話やイベントの企画運営等の今の仕事に役立っていると感じています。

日本研究:授業の紹介

CLASS INTRODUCTION

【日本社会演習】

「日本社会演習」では、主に文献講読と個人研究発表などを行います。文献講読では、社会学の理論や調査法に関する文献を精読します。文献の内容について議論したり、身近な社会現象や各々の研究上の問題関心と関わらせて検討したりすることで、現代の日本社会を多角的にとらえて分析する視角や能力を養います。個人研究発表では、卒業論文を見据え、各自の問題関心に基づくフィールドワークなどから得た調査結果や分析結果を共有、議論することで、研究能力や表現力を磨くとともに、社会と関わる経験も積んでいきます。



日本に最も身近なアジア・太平洋地域に精通した国際派を養成する

アジア・オセアニア研究

発展著しい巨大市場、人的資源と天然資源豊富な、今世界で最もパワーのあるアジア・オセアニア地域。アジア・オセアニアに精通したグローバルな人材を育てます。

また、この地域の知識を深めることは、日本を再認識することでもあります。



教員紹介

■インド哲学(久間泰賢)
古今の資料からインドの思想を学ぶ

■中国哲学(西 信康)
古代中国思想に賢人の知恵を学ぶ

■東洋史(酒井恵子)
漢文史料から中国の歴史を考える

■東洋美術史(藤田伸也)
美術作品から文化の広がりを考える

■中国語学・文献学(白石将人)
中国の言語と書物の歴史を考える

■中国古典文学(湯浅陽子)
文献から中国の古典文学を考える

■中国現代文学(花尻奈緒子)
文学・文化から現代中国とアジアを考える

■文化人類学(深田淳太郎)
オセアニアから人と人、人とモノの関係を考える

■人文地理学(安食和宏)
東南アジアの環境と人々の生活を学ぶ

■自然地理学(谷口智雅)
観測・観察で地域の水環境を理解する

■図書館・情報学(三根慎二)
学術情報流通・情報メディアを研究

■台湾文学(何 憶鵬)
台湾の文学から社会問題と歴史を考える

アジア・オセアニア研究:授業の紹介 CLASS INTRODUCTION

【中国の文学】

高校までは国語の時間に漢文を学習しますが、大学では外国の文学として中国文学を学びます。この授業では、学期ごとに中国の特定の時代を取り上げ、時代背景なども視野に入れつつ、おもな作者の作品を読み進め、その表現や内容について受講生の皆さんと検討するなかで、その時代の文学の持つ特質について考えます。日本を含む東アジア地域に多大な影響を与え続けた中国の古典文化に触れ、理解を深めてください。



卒業生インタビュー OG Voices

柔軟な思考力を養い、
社会の中で活かす

フジデノロ株式会社

2020年卒業 M.T.さん



私は、久間ゼミでインド思想を学びました。その後、名古屋大学大学院の修士課程を修了し、現在に至っています。研究では、文献を読み解いていく作業が主となります。研究を通じて得られた専門的な知識が、自分の仕事と直接結びつくことは多くはないのですが、研究の中で、多種多様な考えに触れることによって育まれる批判的思考力、柔軟な思考力が社会の中で活かせるものと思います。

近代科学と現代文明を生み出し環境との調和を模索するヨーロッパから知を

ヨーロッパ・地中海研究

ヨーロッパは多くの民族と言語を抱え、ギリシア・ローマの古代文明、キリスト教文化、近代科学と現代文明を生み出しました。そして現在、文明と環境との調和を模索する成熟した社会となっています。EUとしても世界と日本に影響を及ぼしています。この成熟した社会の知を学び、日本の社会に生かし、世界に羽ばたく人材を育てています。



教員紹介

- 哲学(田中綾乃)
「なぜ?」から始まる哲学
～人間存在と世界について考える～
- 歴史学(野村耕一)
今と未来を生きたるため、歴史に学ぶ
- 言語学(綾野誠紀)
英語、日本語等の母語に関する知識の研究
- 英語音声学(服部範子)
話しことばから英語の音の姿を探る
- ドイツ語学(高橋美穂)
ドイツ語を対象に言葉のしくみを探る
- ドイツ語学(山崎祐人)
ドイツ語を通じて、ことばのしくみを学ぶ
- イギリス文学(赤岩 隆)
英語で書かれた小説を通して世界を見る
- イギリス文学(小嶋ちひろ)
演劇における社会の表象を考える
- 比較文化・フランス語(グットマン・ティエリー)
他国と比較しながら日本政治の特徴と普遍性を探る
- フランス文学(山本 寛)
フランス文学から人間の心と精神を考える
- ドイツ文学(稲葉瑛志)
ドイツの文学から「近代」の問題を考える
- ドイツ文学・思想(鈴木啓峻)
ドイツ文学を通して人間性の輪郭を捉え直す
- ドイツ文学・思想(林 英哉)
文学を通して社会の問題を考察する
- 社会学(畠中茉莉子)
ヨーロッパ・地中海を社会と文化から学ぶ
- 人文地理学(北川眞也)
ヨーロッパの「多文化共生」を学ぶ

卒業生インタビュー OG Voices

グローバルな視野の広さが 仕事の要に

サミットスチール株式会社

2022年卒業 A.K.さん



現在は鉄を主に扱う商社で働いています。異なる考えを持つ取引先同士の間に入って行う業務です。なのでヨーロッパ・地中海の文化や社会を学び、多様性を受け入れる姿勢を育めたことがとても役に立ったと感じています。

また日本国内だけでなく世界での取引も多いため、世界を見渡す広い視野が何より大切です。

大学で学んだ世界の国々に対する知識が、私の視野を大きく広げてくれています。

ヨーロッパ・地中海研究:授業の紹介 CLASS INTRODUCTION

【ヨーロッパ・地中海の社会】

皆さんは「ヨーロッパ・地中海」という地域に、文化や芸術が華やかであり、科学も発達しているというイメージを抱いているかもしれません。もちろんそうした側面もありますが、その一方でこの地域には様々な民族の人々が暮らしており、そこから生み出される多くの差異や葛藤に人々は直面してきました。この授業では、この地域の人々がそうした現実に向き合いながら、どのような社会制度を築いてきたのかを皆さんと一緒に考えています。



多民族・多文化社会アメリカを深く知り現代社会に生きる力をつける

アメリカ研究

世界中から人が集まるアメリカは、現在の世界の縮図です。大衆消費社会の文化で世界を魅了する国は、私たち自身の生活を考えるヒントに満ちています。先端の技術文明と大自然、大都市とスモール・タウン、アメリカは多様です。

隣接するカナダ、中南米も含め、人や社会を多角的に理解する方法を身につけます。



教員紹介

- | | | |
|------------------------------------|--------------------------------------|------------------------------------|
| ■哲学(野上志学)
常識を疑い、厳密に考えなおす | ■アメリカ文学(小田敦子)
詩を読み、英語のリズムと意味を体感する | ■社会人類学(立川陽仁)
グローバルな時代の辺境を探る |
| ■科学史・科学論(鈴木秀憲)
「科学」という営みの意味を考える | ■アメリカ文学(野田 明)
言葉と文学の面白さを学ぶ、翻訳にも挑戦 | ■文化地理学(中川 正)
アメリカの地域・環境・景観を探検する |
| ■アメリカ史(森脇由美子)
都市生活の歴史的研究 | ■アメリカ文学(田畠健太郎)
アメリカ小説の登場人物に感情移入する | |
| ■対照言語学(松岡幹就)
人間言語の文法の普遍性と多様性を探る | ■社会学(江成 幸)
アメリカの多民族社会を探究する | |

アメリカ研究:授業の紹介

CLASS INTRODUCTION

【アメリカ史演習】

この授業は、アメリカ史に関する英語文献や史料を読み、近年アメリカで発表された研究や当時の史料を通してアメリカ史を学ぶものです。扱う内容は「西部への移住」や「植民地時代の家族」など多岐にわたりますが、高校の「世界史」の教科書のような概説的なものではなく、具体的な出来事やテーマを取り上げ深く学んでいきます。アメリカ史を学ぶとともに、洋書講読を通して英語読解力を身に付けることも目的にしています。



卒業生インタビュー OG Voices

観察する力、想像する力で プラスワンの提案を

IACETラベル

2018年卒業 K.M.さん



私は現在、お客様
のご旅行の細々
としたお手伝い

だけではなく旅行全体についてのご提案まで
させていただく仕事を行っています。お客様と
のやりとりからその方の本当のニーズを見
抜いて、プラスワンのご提案をすることがこ
の仕事ではとても大切です。そのための観察
する力、想像する力は、人文学部での文化人
類学の研究を通して身についたと思います。